令和５年度　川口市立朝日西小学校　学校だより

むくの木

№6　　１０月号

学校教育目標

［知］進んでできる子・考える子

［徳］心豊かな子

［体］たくましい子

言葉の温もりを感じる読書を

校長　佐藤　貴広

子供たちの輝く瞳。乗り出すように聴き入る姿。本校の「読み聞かせ」では、学校図書館やお気に入りの本を、学校応援団の保護者の方が読んでくださっています。読み聞かせは、一人で黙読するのと違って、読む方の子供たちへの思いが、言葉の温もりとなって伝わっているように思います。また、聴いている子供たちのそれぞれの心の動きが、目には見えない波動となって伝わり合っているようです。それぞれの読後感は違っても余韻を共有する温かな時間になっているように思います。

絵本に関するラジオ番組に、ＮＨＫの「落合恵子の絵本の時間」があります。作家の落合恵子さんが毎回１冊の絵本を紹介しています。番組の冒頭では、「絵本は、うまれてはじめて、本というものに出会うもっとも小さな人から、年齢制限なし。深くて豊かなメディアです。」と、絵本の価値が語られます。絵本は不思議です。本の中の絵は動きません。でも、物語を読んでいくと、登場人物や背景が頭の中で動き始めます。同じ絵本でも、読み手と聴き手の数だけ、想像する世界があります。その世界は、その人だけのもので、自由です。また、同じ作品でも読みを重ねたり、時を経て読み返したりすると、違った感想や読後感があります。本当に、深くて豊かなメディアです。

一昨年の全国学力・学習状況調査では、初めて「家庭の蔵書数」を調べました。家庭の蔵書数が多い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。本が身近にある環境が、子供の学力によい影響を与えるようです。５月に実施した埼玉県学力・学習状況調査でも、本に関する質問がありました。１か月に何冊くらいの本を読むか、県と本校の児童の回答結果は以下のようになりました。（４～６年生の結果を合わせました）

質　問	１か月に、何冊くらい本を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）					
選択肢	０冊	１～２冊	３～４冊	５～10冊	11冊以上	無回答等
埼玉県(%)	14.7	24.7	19.9	14.5	18.8	7.4
朝日西小(%)	17.5	36.4	13.0	20.4	12.7	0

本校は、県全体と比べると読書数の少ない児童が多いようです。子供たちには、学校図書館の本をもっと読んで欲しいと思います。世の中は急速に情報化社会が進展し、便利な一方で、断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢になりやすい危うさもあります。ものごとの真偽を見極める判断力や想像力は、自分でものを考える習慣から身についていきます。読書は、楽しみながら、考える習慣を身につけることができます。図書館には、子供たちの関心や好奇心を喚起する本がたくさんあります。ご家庭でも、お子さんと一緒に本を読み、新しいことを知ったり、想像したりすることの楽しさを共有されてはいかがでしょうか。言葉の温もりを感じながら。きっと、子供たちの学びによい影響を与えるはずです。